

香川小児病院心臓血管外科・江川善康氏

香川の医療最前線

⑦



生まれつき、心臓の構造や心臓につながる血管に異常を抱える先天性心疾患は、新生児約100人に1人の割合で起きるとされる。一般的に手術による治療が行われているが、近年では、開胸手術より負担が少なく済むカテーテル治療も広がってきた。県内で唯一、小児の心臓手術を手掛ける香川小児病院心臓血管外科の江川善康医師に、小児心疾患のカテーテル治療の最新事情を聞いた。

「子どもにもカテーテル治療が可能なのか。カテーテルを足の付け根などから血管に入れ、心臓まで挿入する治療法は大人と同じ。香川小児病院では小児循環器科の医師が担当している。先天性心疾患に対する件数はここ10年増加傾向にあり、昨年の手術数は全手術件数の13%にあたる23件。今年は既に30件を

超えている。カテーテルを使い、どのように治療するのか。例えば、肺動脈が狭く血液が流れにくくなる「肺動脈狭窄症」に対し、カテーテルの先に取り付けた風船を狭まった部分で膨らませて広げたり、ステントと呼ばれる金属製の網目状の筒を入れる手法がある。また、大動脈と肺動脈をつなぐ動脈管という血管は通常、生後に自発呼吸を始めると自然に閉じるが、これが開いたままになる「動脈管開存症」という疾患では、カテーテルで入れたコイルを動脈管に詰め、栓をする。

小児心疾患

負担少ないカテーテル治療拡大

去年は全手術の13%

脈狭窄症」に対し、カテーテルの先に取り付けた風船を狭まった部分で膨らませて広げたり、ステントと呼ばれる金属製の網目状の筒を入れる手法がある。また、大動脈と肺動脈をつなぐ動脈管という血管は通常、生後に自発呼吸を始めると自然に閉じるが、これが開いたままになる「動脈管開存症」という疾患では、カテーテルで入れたコイルを動脈管に詰め、栓をする。

「子どもにもカテーテル治療が可能なのか。カテーテルを足の付け根などから血管に入れ、心臓まで挿入する治療法は大人と同じ。香川小児病院では小児循環器科の医師が担当している。先天性心疾患に対する件数はここ10年増加傾向にあり、昨年の手術数は全手術件数の13%にあたる23件。今年は既に30件を

超えている。カテーテルを使い、どのように治療するのか。例えば、肺動脈が狭く血液が流れにくくなる「肺動脈狭窄症」に対し、カテーテルの先に取り付けた風船を狭まった部分で膨らませて広げたり、ステントと呼ばれる金属製の網目状の筒を入れる手法がある。また、大動脈と肺動脈をつなぐ動脈管という血管は通常、生後に自発呼吸を始めると自然に閉じるが、これが開いたままになる「動脈管開存症」という疾患では、カテーテルで入れたコイルを動脈管に詰め、栓をする。

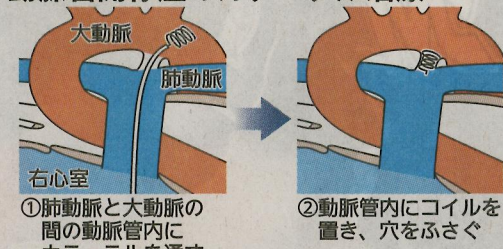
「メリットは。開胸手術より患者の負担が小さく、回復も早い。近ごろは特に、美容面を気にする患者や家族が増えてきたので、傷跡がほとんど残らないのも利点だ。どんな先天性心疾患にも、まだ実績はないが、数年後のスタートに向けて準備を進めている。

「えがわ・よしやす 1978年徳島大医学部卒。同学部付属病院などで勤務した後、91年から香川小児病院。心臓血管外科医長などを経て、2006年から統括診療部長。心臓血管外科専門医、日本小児循環器学会評議員、日本循環器学会四国支部評議員。徳島市出身。57歳。

疾患にも広がりそうか。左右の心房を隔てる壁に穴が開いている「心房中隔欠損症」は症例数の多い病気だが、これに対しても、カテーテルに取り付けて穴を閉じられる折りたたみ傘のような器具が登場し、既に治療に取り入れられている病院がある。香川小児病院では、まだ実績はないが、数年後のスタートに向けて準備を進めている。

「子どもにもカテーテル治療が可能なのか。カテーテルを足の付け根などから血管に入れ、心臓まで挿入する治療法は大人と同じ。香川小児病院では小児循環器科の医師が担当している。先天性心疾患に対する件数はここ10年増加傾向にあり、昨年の手術数は全手術件数の13%にあたる23件。今年は既に30件を

動脈管開存症のカテーテル治療



①肺動脈と大動脈の間の動脈管内にカテーテルを通す
②動脈管内にコイルを置き、穴をふさぐ

香川小児病院
 1969年の心臓手術治療開始以来、先天性心疾患に対して2009年までに2744件の手術を実施した。ここ10年間は年間約80件を実施。現在は江川医師ら心臓血管外科の3人で担当している。
 所在地：善通寺市善通寺町2603
 電話：0877 (62) 0885
<http://www.hosp.go.jp/~kagawasy/>